

はじめに

皆様、初めまして。この度、フィンドレー大学・福井県奨学生として、アメリカのオハイオ州に位置する、フィンドレー大学に2018年秋から2019年春まで留学させていただくことになりました、伊藤瑛里(いとう えり)と申します。私は高校2年次にも、福井県高校生海外研修に参加させていただきました。その経験はその後の自分の将来を考えるきっかけになり、英語への興味・向上への意識が増しました。あれから約4年経ちましたが、またこうしてアメリカの大学で学ぶ機会をいただき本当に



感謝しております。これから約10か月滞在することになります。このような長期滞在は初めての経験ですが、皆様の支援を糧に充実した10か月となるよう、日々挑戦していきたいと思えます。また、福井県の代表ということ忘れず、帰国後、福井、特に福井の学校教育に貢献できるように多くのことを吸収していきたいと思えます。

自己紹介

私は、福井大学教育地域科学部学校教育課程に在籍しております。卒業研究では、外国人児童生徒の支援のあり方、多文化共生教育の実現の仕方について考えております。将来は、子どもたちにいろんな世界にはいろんな考えや文化をもったひとがいることを伝え、多様な価値観を伝えられるような教師になりたいと考えています。そのため、アメリカではいろんな文化に触れ、自分がまだ知らない世界を見たいと思えます。大学では語学センターという、日本人学生と留学生をつなぐためのイベント等を企画・運営する組織に所属していました。この経験を生かし、アメリカでも自分から行動を起こすように努めていきたいと思えます。



フィンドレー大学について

—専攻について—

フィンドレー大学は、教育学部、経済学部など多くの専攻があります。大学の先生方や職員、学生はみんな親切で、分からないことがあるとよく聞くのですが、初めて会うにも関わらず、とても親切に助けてくれます。

私は教育学部に所属し、今学期は英語の Writing, Reading, アジアの宗教について学ぶ Religion in China and Japan, Phonics, Foundation of Literacy(識字教育), experience in Japanese(アメリカ文化と日本文化を比較する授業)を受講しています。週に2・3回もある授業もあり、毎回の課題の締め切りが短く大変ですが、空いた時間を見つけて計画的に学習を進めています。また、学校外の活動にいくつか申し込んだので、授業の詳しい内容やそうした活動については来月以降、お伝えできればと思います。

—放課後—

授業は曜日によって始まる時間や終わる時間が違いますが、だいたい毎日5時前には授業が全て終わります。そのため、授業が終わると自由時間です。自由時間のときはエクササイズのクラスに参加したり、授業の課題の時間に当てたしています。エクササイズのクラスは好きなときに自由に参加でき、キックボクシング、ヨガ、マッサージ、ズンバのクラスがあります。そのなかでも私はズンバのクラスに参加しています。ズンバとは何か分からないままとりあえず参加することにしましたが、楽しい音楽にのって踊るのはとても楽しいです。これからも継続的に参加したいと思います。こうした自分の知らない世界に飛び込むことは少し勇気はありますが、わくわくします。

こころがけていること

これまで2回ほど海外に短期研修で行ったことがありました。そのときは周りに必ず誰か知っている友人がいました。分からないことがあっても、周りに聞けばすぐ解決しました。ですが今回は今までのような友人はいません。1から自分でやらなければいけないことばかりです。そして分からないことだらけです。なので私は必ず誰かに「聞く」ようにしています。知ってるひとに聞く場合もあれば、全く知らない人に聞くこともあります。自分で調べれば分かることかもしれませんが、英語を話す練習を含めて人に聞くように心がけています。おかげで特に困ったことはまだありません。少しでも疑問に思ったこと・聞き取れなかったことは聞きます。今まで、自分の発音に自信がなく、きちんと伝わるかどうか不安でした。まだまだ一回では伝わりきらないことがありますが、相手も私の英語を理解しようとしてくれますし、「分からないことはなんでも聞いて」ととても前向きに捉えてくれていきます。間違えることは決して恥ずかしいことではない、自分にとってプラスになることだと捉えてこれからも頑張っていきたいと思います。

拙い文章ですが、読んでいただきありがとうございました。質問、感想等あれば遠慮なくご連絡ください。 →itoe@findlay.edu

伊藤瑛里

作成日：2018年10月9日

はじめに

今年は日本が台風の被害を多く受けるなか、フィンドレーはよい天気が続いています。まだまだ日中は暑く、半袖の学生をよく見かけます。ですが、朝晩は涼しさも感じるため、秋の訪れを少しずつ感じています。今月の報告書では、今期の授業、課外活動等について紹介いたします。

秋学期の授業について

先月の報告書でも伝えてしまいましたが、秋学期から学部の授業をとっています。現地の学生が授業の大半を占めているため、毎回の授業はとても緊張しますが、多くの刺激を受けています。なかでも、私が好きな授業は識字教育（Phonics and Foundation of Literacy）の授業です。授業ではグループで教科書の内容についてディスカッションを行ったり、word learning についての発表をしたりしています。英語が母国語である子どもたちがどのように読み書きを学ぶのか、どのような指導がよいのかを学んでいます。日本の英語教育でも活用できそうなアクティビティもあり、自分だったらどのように授業で活かしたいかを考えながら受けるようにしています。また、Experiences in Japanese（日本文化について学ぶ授業）も好きな授業の一つです。私たち日本人にとって当たり前だと思うことも、他の国のひとから見ると「どうして？」と疑問に思われることもあります。それを説明するにはその文化について深く知っておく必要があります。またそれをどうやって伝えるのかも大事なことです。この授業を通して、自分の文化について深く知り、上手く伝えることができるようになることが目標です。



↑授業の課題として日本食を作りました。

9.11について

2001年9月11日。同時多発テロが起きてから今年で17年がたちました。大学でもお昼の時間、メインビルディングの前の旗の周りに集まり、追悼の意を込めた黙祷が行われました。集まったひとの数はそれほど多くありませんでしたが、その黙祷を見たひとは立ち止まって一緒に黙祷する場面も見られました。また、その日にあったどの授業においても、先生方は授業の冒頭で同時多発テロ事件について触れられていました。これらのことから、17年前の9月11日はアメリカの人々にとって、とても衝撃的な出来事であったとともに、大きな歴史のターニングポイントの一つだったのではないかと感じました。私はこの事件についてテレビの報道でしか見たことがありません。ですが、アメリカに来て、自分の目でこの

事件に対する思いを感じることができたと思います。同じようなことが二度と起こらないことを願った日でもありました。

* 課外活動について *

—Family Literacy Night—



↑ 桃太郎を紹介しました。

Family Literacy Night とは現地の小中学校の場所を借りて行われる、子どもたちに文字や文化について触れてもらうためのイベントです。ジャマイカ出身の大学院生と主に活動しています。これまでこのイベントで、私は日本の絵本を読んだり、子どもたちに折り紙を体験してもらったりしました。日本という国はアメリカの子どもたちにとってまだまだ遠い国です。ですが、この機会を

通して、違う文化に触れてもらい、日本という国を少しでも知ってもらえると嬉しいです。折り紙の回ではたくさんの子どもたちが折り紙を楽しんでくれました。なかでも、手裏剣の折り紙が好評でした。作り方が分かった子が他の子に教えている場面も見られ、とても嬉しかったです。折り紙はアメリカでも **origami** として販売されていることから子どもたちのなかでも馴染みのある日本の文化だったのだと思います。



↑ 折り紙を紹介しました。ジャマイカ出身の Dane さんと。

* 休日について *



休日は主に買い物や料理を作ったり、友達とダウンタウンに出かけたりしています。

9月の始めに3連休の休みがありました。連休最終日に友達の家に行き、ご飯をごちそうになりました。**Cooking out** ということ友達と友達のお父さんが料理を振舞ってくれました。料理の中にスイートポテトがあったのですが、日本のスイートポテトとは違い、またそれもおいしかったです。ご飯のあとは会話を楽しんだり、焼きマショマロを作ったりとのんびりとした一日を過ごすことができました。アメリカに来てから2週間たった頃の休みで、それまでの緊張もほぐれ楽しい休日でした。



↑ スモアを作りました。

拙い文章ですが、読んでいただきありがとうございます。質問、感想等あれば遠慮なくご連絡ください。 → itoe@findlay.edu

伊藤瑛里

作成日：2018年11月10日

はじめに

9月が終わり、だんだんと寒くなり秋の訪れを感じ初めています。まだ10月だというのに、朝晩は冷え込み暖かい服装で出かけることが多くなりました。今月は10月に行った課外活動と秋休みについて紹介したいと思います。

Funday Sunday



↑正門をイメージした装飾

Funday Sundayとは毎月第1日曜日に、大学内のMazza Museumで行われるイベントです。このイベントでは毎月テーマがあり、そのテーマに沿ったイベントブースがいくつか設けられ、近隣の親子連れがやってきます。私は同じ福井県奨学生の北さんと一緒に日本ブースのコンタクトパーソンとして、日本ブースの担当をしています。

今年初めのFunday Sundayは大学のhome coming week(卒業生たちが大学にやってくる)に開催されたということで、学校のイメージカラーである、オレンジと黒を基調としたデザインのなか比較的自由的なテーマで行うことができました。私たち日本ブースでは日本の夏祭りで定番のヨーヨー釣りを準備しました。50個ほど用意したのですが、たくさんのお子どもたちが来てくれたおかげで、用意していたヨーヨーがなくなり、追加でつくることになりました。終わってみると、70個ほどのヨーヨーがなくなるほどの大盛況ぶりでした。訪れてくれた多くのお子どもたちが、日本のヨーヨー釣りを楽しんでくれて本当に良かったです。このFunday Sundayは毎月行われるもので、日本のことを現地のお子どもたちを中心に知ってもらえるよい機会なので、これからも楽しみです。



↑ヨーヨー釣りは大好評でした。

トレド動物園 Asia International Night

10月の始め、トレド動物園でAsia International Nightと呼ばれる、アジアの国の祭典がありました。そこでは中国、インド、バングラデシュ、日本といったアジアの国々が自国の文化を紹介・体験できるブースを設

↓トレド動物園のイルミネーション



けられたり、歌や踊りを披露したりとしました。日本ブースを同じフィンドレー大学に留学にきている学生たちで役割分担をし、習字、折り紙、水引体験のブースを設けました。私はその中でも折り紙ブースを担当しました。動物園で開催されたこともあり、動物の折り紙を来てくれた子どもたちに紹介しました。中には何度も折り紙ブースに来て折り紙を楽しんでくれる子もいて本当にうれしかったです。紙一枚で簡単にできてしまう折り紙は誰でも簡単にできる、よき日本の伝統文化の一つであると改めて感じることができました。また、そのイベントが終わった後に、動物園のなかを見てまわる時間があり、少しの時間ですが、日本の動物園とはまた違った雰囲気を感じることができました。(夜8時を過ぎたころでしたので、ほとんどの動物は寝てしまっていたため、観ることはできませんでした。唯一、鷹を観ることができました。)

アメリカ人と日本人の価値観について

突然ですが、日本人の価値観って何だと思いますか？年功序列、周りの目を気にしてしまう、家庭よりも仕事優先などが日本人がより価値を置くことでしょうか。どうしてこのような話を始めたかという、授業の課題の一つとしてアメリカ人と日本人の価値観の違いについて話す機会があったからです。アメリカ人を含んだグループで話し、お互いが受けられない価値観、疑問に思う価値観について意見を交わしました。アメリカ人が価値を置くことと日本人が価値を置くことを比べると、日本人の価値感の方が消極的なイメージがありました。改めて国が違うことで生活環境も社会環境も異なるため、その国のひとの価値観も違ってくるのだと感じました。こうした考えかたの違いかたについて、アメリカ人の学生と話ができて本当によかったと思います。そして、どちらの価値観がよいかについては、決めることができないと思います。どちらが良いかを決めるよりも、そうした考え方を受け入れ、よいと思った考えかたを取り入れていくのが大事なのではないのでしょうか。グループで話をしたときに、アメリカ人の価値観として、個人主義があがりました。日本ではどちらかという集団で話しあいをしてひとつのことを決めたり、他のひとの意見を聞いて自分の意見を決めたりすることが多いと思います。これは他の意見を尊重するという点ではよいと思いますが、一方で他の意見に左右されやすいとも言えます。しかし、アメリカでは自分の意見は自分で決める、「他は他、自分は自分」という考え方が強いそうです。私はこの考え方が好きです。自分は自分らしくいればいい、自分らしくやればいいという考え方は自由な発想を許してくれる気がします。「自由の国アメリカ」と呼ばれるのも、このような価値観が関係しているのかもしれませんが。



↑同じグループの学生とトランプをしました。

秋休み

10月の半ばに4日間ほど秋休みがありました。その休みを利用してアメリカ人と日本人の友人たちとキャンプに行きました。テント張りから火おこし、料理まで自分たちで準備するといったキャンプは小学校以来でとても楽しかったです。10月の半ばということもあり、外は寒かったですが、暖かい料理を火囲みながら食べたり、談笑したりととても思い出に残る秋休みとなりました。そして何より、アメリカに来てから2ヶ月が経ち、こうして休みを一緒に過ごしてくれる友達ができただけでなく、これも嬉しかったです。これからもこうした友達の輪を広げていきたいと思ひます。



キャンプファイヤーの様子→

アメリカに来てから2ヶ月が経ちました。8月に来たときに比べ、生活にも慣れてきました。大学で会うと声をかけてくれる友達や遊びに誘ってくれる友達もでき、本当に嬉しいです。こうして声をかけてくれるようになった友達は、この2ヶ月で授業や学内のイベントに参加したときに知りあった友達ばかりです。たった一度の出会いですが、会うと声をかけてもらえることは本当に嬉しいことですし、私も見かけたら声をかけることにしています。これまで積極的にイベント等に足を運んだ甲斐があったなと思ひます。

寒いですが、11月も自分らしくコツコツと勉強も課外活動のほうも頑張ったいと思ひます。

拙い文章ですが、読んでいただきありがとうございます。質問、感想等あれば遠慮なくご連絡ください。 →itoe@findlay.edu

伊藤瑛里

作成日：2018年12月8日

はじめに

11月になり、フィンドレーはすっかり冬になりました。11月だというのに雪も降り、出かけるときはコートやマフラーが欠かせなくなりました。これからまだまだ寒くなると思うと、ぞっとします。暖かい服装をして風邪を引かないようにしたいと思います。今月は Genki Kids、福井のビジネスマン・ビジネスウーマンのフィンドレー訪問、Thanksgiving break の様子について紹介いたします。

Genki Kids

Genki Kids とはフィンドレーに住んでいる、現地の子どもたちに日本語を教えたり、日本文化について触れてもらうという活動で、日本語専攻のアメリカ人2人と私を含めた日本人2人がペアになって行いました。活動自体は週1回の1時間という短い時間でしたが、毎回の準備でバタバタしていた気がします。私が在籍する日本の大学にも留学生がたくさんいるので、これまで留学生たちに日本語を教えるという機会はありませんでした。彼らは既にある程度の日本語を知っていたのでその分教えやすかったと思います。ですが、今回は日本語を知らない子どもたちに日本語を、しかも英語で教えるということで、上手くできるか不安でした。

時間も限られているということで、日常生活で使う日本語表現を中心に教えることにしました。日本語の発音は英語の発音と異なるため、子どもたちにとっては難しかったと思いますが、「こんにちは」と言って覚えた日本語を使って、教室に来てくれた姿を見たときはとても嬉しかったです。言葉以外にも、箸の使いかた、折り紙、書道といった日本の文化体験の時間も設けました。子どもたちが真剣に箸を使う姿や、できた折り紙をみて喜ぶ顔が印象に残っています。毎回この活動を楽しみにしてくれていた子どももいて、この活動に関わることができてよかったです。日本という国は日本語専攻の学生のように、日本に興味があるひと以外のアメリカに住む人にとってはまだまだ遠い国です。この Genki Kids を通して、子どもたちは少しでも日本に興味をもってくれたら嬉しいです。

私自身、この活動を通して、言語を教えることの難しさを感じました。ただ一方に教えるだけは面白くもなく、実用性があまり感じられません。いかに子どもたちの興味をひかせながら、インタラクションを取り入れて教えることができるのか、本当に難しいことだと思います。ですが、それは同時に教えることの楽しさでもあると思います。活動内容に悩むこともありましたが、子どもたちの様子を浮かべながら毎回の活動を考えるのは楽しかったです。こうして現地の子どもたちと活動できたのは貴重な体験でした。

福井の若手ビジネスマン・ビジネスウーマンのフィンドレー訪問

11月の初めに福井県から若手のビジネスマン・ビジネスウーマンの方が研修でフィンドレーにいらっしゃいました。直接その方たちと交流する機会はほとんどありませんでしたが、同じ福井県出身ということで、一緒にランチをした際、福井の話で盛り上がることができました。

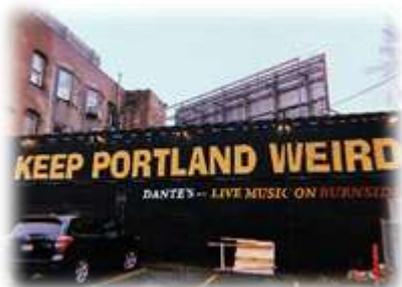
私はビジネスウーマン・ビジネスマンのかたの最終プレゼンテーション発表に参加しました。そのプレゼンテーションでは自分たちの会社のことについて英語でプレゼンテーションをされました。プレゼンテーションの資料の準備もよくされていて、質疑応答にもしっかりと対応しているところがとても印象的でした。自分が所属する会社について英語で紹介するというのはそう簡単なことではないと思うので、そのプレゼンテーションから私も自分の英語学習に対する刺激をもらいました。

Thanksgiving break

Thanksgiving break ということで大学は5日間休みでした。この機会を利用してシアトルとポートランドに旅行してきました。シアトルもポートランドもどちらも素敵な街でした。州が変わると街並みも住んでいるひととも違うということ感じました。

Thanksgivingの次の日の金曜日はBlack Fridayと呼ばれています。ほとんどのお店で約25-75%の割引きがあり、そのため、多くのものが通常より安く買えます。そのおかげで、お客さんの購買意欲が高まり、結果的に黒字になることがあることからBlack Fridayと呼ばれるそうです。また、Thanksgivingはクリスマスに向けての準備を始める時期でもあるそうで、クリスマスに関する商品も多くみました。Black Fridayはどのお店もたくさんのひとがいて、多くのひとで街はにぎわっていました。

また、ポートランドでは友人のホストファミリーのディナーに招待され、一緒にエチオピア料理を食べました。エチオピア料理はパンのような生地いくつかの具がのってあって、生地と一緒に手で食べるというスタイルでした。初めてのエチオピア料理でしたが、とても美味しかったです。1日でしたが、友人のホストファミリーとゲームやディナー、会話を楽しむことができました。この他にも、ポートランドと言えば！の看板↑



ポートランドはフードコートが有名で、たくさんの国の料理を楽しめました。また機会があれば行ってみたい街のひとつになりました。

シアトルで有名な市場↓



拙い文章ですが、読んでいただきありがとうございました。質問、感想等あれば遠慮なくご連絡ください。 →itoe@findlay.edu

伊藤瑛里

作成日：2019年1月6日

はじめに

11月のThanksgiving breakも終わり、秋学期も終わりに近づいてきました。12月の2週目にはFinal Examがあり、大学内はすっかり勉強モードです。私はテストよりも最終のレポート課題の方が多かったので、課題を終わらせるのに必死でした。今月はそのFinal Examと冬休みについて紹介いたします。

Final Exam

Final Examとはその名の通り、期末試験です。どの授業でもこのテストの点数が評価の多くを占めるため、どの学生もいつも以上に必死に勉強します。授業によって、テストの代わりにレポート課題を課す場合もあり、私の場合、ペーパーテストは2つで、残りはレポート課題でした。一番大変だったのは、宗教の授業のオンラインテストでした。オンラインだったので提出まで時間がありましたが、各問題に300-500語で答えないといけなかったため、私にとってはとてもハードでした。ほとんど毎日パソコンとノートと教科書を見ていた気がします。また、テストがない授業の最終レポートのメ切りはテスト週間前だったので、とてもバタバタしていました。ですが、すべてのテストとレポート課題が終わったときは達成感でいっぱいでした。12月の3週目にはFinal Gradeも発表され、ほっとした気分が冬休みが始まりました。

テスト期間中は無料でコーヒーやスナックが配られ、勉強を応援するような催し物もあり、日本の大学では見られないことだと思いました。しかし、テストが終わったあとに友人同士で答え合わせをする姿は日本の学生と変わらず、国は違えど何か同じ雰囲気を感じることができました。

farewell party

12月帰国、卒業する日本人学生、日本語専攻の学生のためのお別れ会がありました。帰国・卒業する学生はそれぞれ英語または日本語でスピーチをしました。一人一人自分の言葉でフィンドレーでの生活についてスピーチをしていて、私も胸にぐっときました。そして、半年後には私があの場所でスピーチをするのだと想像すると、この留学生活も半分終わったということを実感しました。本当に時が経つのは早いものです。しかし、半年で帰る日本人学生に比べれば、私はもう半年いることができるので、残りの留学生活も気を引き締めていこうと思います。8月に来た当初、アドバイザーの先生から、「自分の部屋にはいないこと。どこか外へでること」とアドバイスされました。部屋にこもってしまうと日本語で物事を考えがちになってしまいます。ですので、残りの留学生活も、部屋に引きこもることのな

いようにしたいです。

* Winter Break *

Winter Break ということで、Final Exam が終わるとすぐに学生たちは自分の家に帰ったり、旅行に出かけたりし、キャンパス内は一気に静かになりました。私はこの休みを利用し、2週間弱、カリフォルニア州へ旅行に行きました。カリフォルニア州は日本の面積よりも大きな州で、ロサンゼルスやサンフランシスコと言った有名な都市があります。南に位置するので、冬でも 15-19 度と暖かいところでした。そのため、12 月ということのを忘れそうになりました。その中でも、私はロサンゼルスとサンフランシスコに行きました。

ロサンゼルスではサンタモニカビーチやハリウッドといった有名な観光地はほとんど回ることができました。なかでも Little Tokyo と呼ばれるところがとても楽しかったです。Little Tokyo は戦後、日系人が祖国を想う憩いの場として栄え、現在も多くの日本人観光客で賑わっていました。日本食のスーパーや飲食店もあり、小さな日本という感じでした。また、ロサンゼルスでの滞在先として、ホテルではなく Airbnb というものを利用しました。日本



↑サンタモニカビーチ。初めて太平洋を見ました！

にもあるそうですが、私は知りませんでした。Airbnb とは、いわば民泊です。様々なタイプがありますが、一般のおうちの一部屋を借りるというものです。そのため、ホテルよりかなり宿泊費を抑えることができるうえ、現地のひとの暮らしを感じることができました。

ロサンゼルスのと、サンフランシスコに行きました。サンフランシスコではアルトガラス、通称「The Rock」に行きました。アルトガラスは海に浮かぶ小さな島で、かつてアメリカの凶悪犯たちが収容されていた監獄島です。今は観光地や映画の撮影場所として有名ですが、実際に使われていた監獄がそのまま残っています。監獄棟のなかをオーディオガイド



↑監獄のなかはとても迫力があります。

ドに沿って見て回ったのですが、どこか不気味でこの場所が実際使われていたと思うと少し怖くもありました。使われていた当時のままのものが多かったので迫力もありました。オーディオガイドでは実際に収容されていた囚人や看守の話をもとに監獄内を見て回るできるのでオススメです。

フィンドレーでの留學生活も後半に差し掛かりました。残りはあっという間に過ぎていくことと思います。1 月からも目的意識をしっかりもち、体調管理に気をつけ、引き続き頑張っていきます。

拙い文章ですが、読んでいただきありがとうございます。質問、感想等あれば遠慮なくご連絡ください。 →itoe@findlay.edu

はじめに

長かった冬休みも終わり、いよいよ春学期の始まりです。私にとっては最後の学期です。1月の始めはそこまで寒いと感じたことはなかったのですが、半ばには気温がマイナスを下回る日が続き、雪も降り本格的な寒さとなりました。

Spring Semester Start!

季節は冬ですが、**Spring Semester** が始まりました。今学期がフィンドレーで過ごす最後の学期となります。今学期は秋学期にもとっていた、必修の **writing** の授業のほか、**Speech, Ethnicity, CLUB HOUSE, Japanese translation** の授業を受講しています。今回は中でも **Japanese Translation** のクラスについてご紹介いたします。

このクラスは私を含めた日本人学生 4 人とアメリカ人学生 5 人が受講している比較的小さなクラスです。授業の内容としては日本語の文章を英語に訳する、英語の文章を日本語に訳するといったものです。日本の学校でもよくやるようなことかもしれませんが、この授業の特色はアメリカ人学生の観点からも訳の違いを比べることができることです。例えば、“タクシー運転手はその車のミラーを通して私をにらんだ。”という例文。どんな訳ができると思いますか？“**The taxi driver stared at me over the mirror.**”これが私の答えでした。それに比べて、他のアメリカ人学生の答えはこうでした。“**The taxi driver stared at me over the rear-view mirror.**”このように鏡の訳の仕方が違いました。英語の方がどのミラーのことなのかまで細かく表現されています。こうした同じ状況を見ても捉え方は違うのです。今は実際にある病院のガイドラインを英語から日本語訳にするということを、アメリカ人学生とペアになって行っています。ペアの学生に質問し、ガイドラインの意味をより分かりやすく解釈してもらい、適切な日本語を考えています。ちょっとしたニュアンスの違いをお互いに確認しながらの翻訳作業は大変ですが、とても楽しいです。

mobile food pantry

1月26日に **mobile food pantry** がありました。これは低所得の方に向けたイベントで **food bank** からたくさんの食べ物が運ばれ、その食べ物を配られたり、コーヒーやドーナツなどが振る舞われるものです。この機会は各学期、1回ずつあり、私は2日目の参加でした。前回はコーヒーステーションを担当し、コーヒーやドーナツを配りました。今回は **cultural station** で日本文化について紹介できる機会をいただきました。同じブースには日本のほかにスペイン、韓国のブースもあり、各国のお菓子やゲーム等が体験できるブースが設けられました。私は日本ブースを担当し、箸の使い方体験や折り紙、新年ということで福笑いを準

備しました。全ての方が私たちのブースに来てくれたわけではありませんが、簡単ながら日本について紹介することができたと思います。今回参加して感じたことは、誰かと話をすることの大切さです。低所得者のかたにどのような支援ができるかを考えたとき、食料支援や医療支援が一番始めに浮かぶかと思います。そしてそれらは比較的に実行に移しやすいでしょう。しかしながら、会話するということが大事ではないかと思います。これは私の勝手なイメージですが、今回訪れた方々は私たちに比べ、普段からひとと話すという機会が少ないのではないかと思います。今回いろんな方と日本のことや昔のお話などをして、会話を交わすことでひとは元気をもらえるのではないかと思います。ひとと話をすると一人であるより、笑顔になれます。それは食料支援だけでは得られないことではないでしょうか。ただ話を聞く、話をすることによって人は元気をもらえるのです。そして、私は毎日いろんなひとに支えられ、たくさんの元気をもらっていることにも気づかされました。



↑福笑いをしました。

**

今期の授業の一貫として **CLUBHOUSE** というものに参加しています。これは読み書きが苦手な子どもたちに読み書き支援を行う、チューター制度のようなものです。ですので、対象はネイティブの子どもたちです。歴代、フィンドレー大学に留学されていた同じ大学の先輩方も参加されていて、とても楽しみにしていました。ですが、それと同時に不安もありました。それは私自身が英語話者ではないということです。英語を母語としない私が参加してもいいのだろうか、上手くできるのだろうか不安でした。そんなことを考えていたら、担当の先生が私に声をかけてくださいました。

“あなたなら大丈夫、できるわ。あなたを信じてるからこの授業に誘ったのよ。じゃないと、声をかけていないわ。そして日本語・日本人であることがあなたの強みよ。”

こんな素敵な言葉に対して、私はただありがたうとしか言えませんでした。この先生はアメリカに来た当初からいろいろとアドバイスをいただいたり、授業でお世話になっている方で、**CLUBHOUSE** への参加もこの先生が誘ってくれたことから参加できるようになりました。子どもたちのため、誘ってくださった先生のため、そして自分のために全力でやろう。そして、何よりも日本語・日本人であることを強みだと言ってくださったことに励まされました。ここに来て、英語が第一言語の環境にきて、日本語・日本人であるということが強みだと思ったことはあまりありませんでした。なぜなら、アメリカでは日本語はマイノリティ言語だと感じていたからです。しかし、先生はそれこそが他の学生にはない私の強みであることを気づかせてくれました。この先生のように子どもの強みに気づき、後押ししてくれる先生になりたいとも思いました。不安もありますが、負けずに頑張っていきます。

拙い文章ですが、読んでいただきありがとうございました。質問、感想等あれば遠慮なくご連絡ください。 →itoe@findlay.edu

伊藤瑛里

作成日：2019年3月7日

はじめに

あっという間に1月は終わり、2月になりました。今期に入ってからは時間が経つのがとても早く感じます。寒さにもなれ、毎日忙しいながらも、充実した日々を過ごしております。今月は現地の学校を訪れたり、子どもたちと一緒に活動したり、現地の学校の先生からお話しをお聞きしたりする機会があったりと、とても充実した一か月となりました。

*** CLUBHOUSE ***

今期から CLUBHOUSE という子どもの読み書きのチューターをする授業に参加しています。前期に受講していた授業の先生から誘われて参加することができました。この CLUBHOUSE はフィンドレー大学に留学されていた、同じ大学の先輩方も歴代取られていた授業で、不安ながらも楽しみでした。この授業では学生でペアを作り、数人の子どもを担当します。このプログラムに参加している子どもたちは読み書きに少し困難を抱えている子どもたちで、授業の大半を子どもたちに読み書き支援を行う、チューターの時間になります。英語話者ではない私が英語を母語とする子どもたちに読み書きを教えるのは私にとっては大きな挑戦です。初めは不安でいっぱいでした。ですが、子どもたちは私の話に耳を傾けてくれ、日本のことについても興味をもって聞いてくれて嬉しいです。また、同じペアの学生の協力もあり、私自身楽しく取り組んでいます。毎週レッスンプランを考えるのは大変ですが、今の子どもたちは何が必要なのか、そのためにどんなことができるのかを毎回考えるのは楽しいです。また、通常の授業とは違い、子どもたち一人一人にあったレッスンプランを考えることができるので、一人一人の子どもたちと向き合うことができます。ここでは前期の授業で習った語彙学習の指導法を実際に試すこともでき、本当によい経験です。この授業を受講している他の学生たちは教育実習を経験していることから、他の学生と子どもたちの関わりからも学ぶものがあります。早くも子どもたちとのレッスンも振り返しです。毎回のレッスンに全力でぶつかり、子どもたちと一緒に私も学んでいきたいと思えます。

*** ESL の先生へのインタビュー ***

私は週1回（前期は週2回）、大学近くの中ドルスクールを訪れ、日本人の男の子のエイド（学習支援）をしています。主に授業中の先生の指示や宿題の確認をしたり、テストの問題の訳をしたりして、その子の学習のお手伝いをしています。この子のように、第二言語を英語とする児童生徒は ESL（English as Second Language）児童生徒と呼ばれています。フィンドレーには日本企業がいくつかあるため、駐在員の子どもが ESL 児童生徒として多く現地の学校に在籍しています。そのため、フィンドレー市内の学校には ESL の免許をも

った教員が在籍する学校があり、英語の言語支援を受けることができます。私は日本で、外国人児童生徒の学習支援ボランティアに携わっていました。この子たちはここでいう ESL 児童生徒のように、日本語を第二言語とするため、JSL (Japanese as Second Language) 児童生徒と呼ばれます。そのため、ESL 支援は日本における JSL 支援にも生かすことができると思い、実際に ESL を担当する先生からお話しをお聞きすることができたのは本当に貴重な時間でした。

幼稚園から小学 3 年生までを担当する、ESL の先生から実際に授業でどのようなことをしているのか、指導の上で気をつけていること、アメリカでの ESL の制度についてお聞きすることができました。忙しいなか、時間を取っていただき、親身になって私の話を聞いてくださった先生には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。また、ESL の先生を紹介してくださった、アドバイザーの川村先生にも感謝の気持ちでいっぱいです。国際化が進み、日本にも外国人児童生徒の数が増えてきました。残念ながら、日本にはアメリカの ESL のよう JSL の免許はなく、外国人児童生徒の支援にあたるのは地域のボランティアや担任教師、言語教育担当の教師が担っているのが現状です。将来、教師となって日本語を第二言語とする児童生徒に出会う機会は充分あると思います。ESL での授業ストラテジーが JSL の児童生徒にそのまま使えるわけではありませんが、充分応用できると思います。そのため、そうした子どもたちの学習支援に中心となって関わっていきたいです。そして、外国人児童生徒も他の日本人の子どもたちと同じように学校生活を楽しく過ごせる学校づくりに貢献したいです。

*** American Musical Newsies ***

週末に大学主催のミュージカルを観にいきました。このミュージカルは学生と大学の先生方が出演していて、学生と先生が協力して作りあげるミュージカルでした。何人か知っている友人がミュージカルに出ていたり、裏方としてミュージカルに携わっていると知っていたので、とても楽しみにしていました。また、ミュージカルの前に地域のかたも参加するレセプションに参加し、お昼を食べながら、ミュージカル監督の先生からお話しを聞くこともできました。

日本でミュージカルを何度か観たことはありましたが、アメリカで観るミュージカルは今回が初めてでした。歌とダンスが多く盛り込まれていて、迫力のある演技に圧倒されました。日本のミュージカルは歌やダンスのシーンはそれほどない気がするので、日本とは一味違うミュージカルを観ることができてよかったです。衣装や小道具・大道具の細かいところも再現されていました。このミュージカルのように学生と教員が一緒に一つの物語を作りあげるのは本当に素敵なことだと思いました。



拙い文章ですが、読んでいただきありがとうございました。質問、感想等あれば遠慮なくご連絡ください。 →itoe@findlay.edu

はじめに

早くも3月になりました。今月は **International Night** という大きなイベントもあり、授業の準備やイベントの準備等で忙しい日々を送っていました。3月になりましたが、まだ寒い日もあり、春はまだ先のような感じがします。早く暖かくなることを願います。

*** Family Literacy Night ***

昨年度も参加した **Family Literacy Night** に参加しました。昨年度は日本文化を体験してもらうことがメインで折り紙を一緒に折ることをしましたが、今回は日本の紙芝居に挑戦しました。このイベントに来てくれる子どもたちは小学校の低学年の子どもが多く、ただ話を読むだけでは退屈してしまい、最後まで集中がもちません。そのため、ただ読むのではなく、子どもたちと対話しながら読み聞かせをしました。読み聞かせはやってみると思っている以上に難しく、どうすれば子どもの注意を引かせることができるのか考えさせられます。また、英語での読み聞かせは私にとっては挑戦でもありました。正直、上手く伝えられるか自信はありませんでしたが、終わった後は達成感でいっぱいになりました。また、このボランティアを通して読み聞かせのおもしろさにも気づきました。三人で交代しながら、同じひとつの話を読んだのですが、一人一人話す内容も違い、聞いてくれている子どもたちも違うため、三つの話が出来上がりました。ですが、それも面白いと思います。日本でも子どもたちに読み聞かせをしたいと思いました。

*** International Night ***

毎年3月末に行われる、一大イベントです。このイベントではフィンドレー大学に在籍している学生たちが自分たちの国の代表として、国ごとにブースを担当し、食べ物やパフォーマンスを披露するものです。今年は記念すべき50回目の **International Night** ということで、どの国もはりきって準備を進めてきました。フィンドレー大学には私を含め、約10人の日本人が留学しています。ですので、同じ時期に留学している日本人が協力し、準備等を進めました。



今年の日本ブースでは、そばめし、白玉団子、緑茶を振る舞い、福笑いとスーパーボールすくいをゲームとして用意しました。日本ブースは毎年、長蛇の列ができると聞いていて、たくさんの量の食べものを用意したつもりでしたが、一時間半ほどで全て完売してしまい

ました。完売後に来てくださった方に、「もうないの一食べたかったなあ」と言っていたとき、日本食をこんなにもたくさんのひとが楽しみにしてくださっていたと思うと、とても嬉しかったです。スーパーボールすくいも人気があり、用意していたもの全てが 2 時間ほどでなくなってしまいました。スーパーボールがなくなった後も、プールのまわりに子どもたちが集まりいつまでも遊んでいました。子どもたちは本当に水遊びが大好きなんだと思います。また、パフォーマンスでは恋ダンスを披露しました。動画見ながら、個人や集まって練習しました。例年はソーラン節を踊っていたようですが、今年は新しい踊りに挑戦してみました。日本の **pop culture** について知ってもらえたら幸いです。

世界各国の国のブースが集まり、各国の食べ物やパフォーマンスを楽しむことができる、このようなイベントは本当に素晴らしいと思います。自国の文化をアピールでき、知ってもらえるよい機会でもあり、自分たち自身も他の国について知ることができる良い機会です。本当に楽しいイベントであり、参加できてよかったです。



↑浴衣でおもてなししました。

フィンドレーでの生活も残り 1 ヶ月となりました。やり残すことがないように、残りの日々も大切に過ごしていきたいと思います。

拙い文章ですが、読んでいただきありがとうございました。質問、感想等あれば遠慮なくご連絡ください。 →itoe@findlay.edu

2018-2019 フィンドレー大学福井県奨学生月例報告書 4月

伊藤瑛里

作成日：2019年5月10日

はじめに

8月に始まったフィンドレーでの留学生活も最後の月となりました。特に春学期はあっという間に過ぎていったように感じます。まとめの月である4月はシンポジウムでの発表、前学長であるフリード氏のもとへ表敬訪問を行いました。

学内シンポジウム

毎年4月の初旬に学生たちが日頃の研究の成果を発表する機会があります。このシンポジウムは朝からあり、大学全体でシンポジウムへの参加が奨励され、学生たちは興味のある発表を聞きに行きます。発表にはプレゼンテーションとポスター発表の2つがあり、私はプレゼンテーションで発表を行いました。私は日本の大学で福井市内の外国人児童生徒の学習支援に携わっていました。また、フィンドレーではESLの先生方にお会いし、フィンドレーでのESL教育や私が行っていた支援についてアドバイスをいただくことができました。そうした経験を、シンポジウムという場で発表させていただきました。準備を1月の初めから始め、特に最後の一週間は準備に追われていました。しかしながら、自分の実践研究について英語で発表すると機会は初めてとてもよい経験になりましたし、実践研究について整理することができました。本番は15人ほどの人が発表を見に来てくださって緊張しましたが、そんなにも多くの方が興味を持って聞きに来てくれたことは同時に嬉しくもありました。



表敬訪問

4月の終わりに1年間の報告として、フィンドレー大学の前学長であるフリード氏のもとへ表敬訪問を行いました。前学長であるフリード氏と前福井県知事である西川一誠氏がこの福井県奨学生制度を始めてくださり、今回で10年目となりました。フリード氏には写真をお見せしながら、1年間の成果を報告することができました。第二次世界大戦後、軍人として福井を訪れ、戦後の復興に尽力を尽くす県民の姿に心を打たれたことからこの奨学生制度が始まり、10年目となりました。こうしてフリード氏に1年間の成果報告ならびにお礼のご挨拶に伺うことができ本当に良かったです。



卒業式

卒業する友人もいたことから卒業式に参加してきました。海外の大学の卒業式に参加することは初めてだったため、ワクワクしていました。式が始まる 1 時間ほど前から会場の席が埋まりはじめ、卒業生の家族でいっぱいでした。日本だと卒業式には両親のみの参加が一般的だと感じますが、ここでは祖父母や親戚一同といった、家族全員で式に主席していた印象を受けました。また、学位書を学長から 1 人 1 人手渡しされていたのも印象的でした。

海外の卒業式としてイメージするなかに四角の帽子があるかと思います。(academic cap と呼ばれるようです。) 卒業生の帽子を注意してみると、帽子がアレンジされていたの



に気がつきました。お花やこれからの抱負などを帽子に込め、1人1人がオリジナルの帽子をかぶっていました。また、学位書を受けたあと、卒業生たちは帽子についているタッセルと呼ばれる紐を左から右へ動かしていました。これはある種のジンクスだそうで、左から右へと動かすことで、人生における区切りのひとつだということを示しているそうです。卒業式でも新たな発見をする

ことができ、また、友人の卒業を祝福することができたのでよかったです。卒業生の皆さん、本当におめでとうございました。

拙い文章ですが、読んでいただきありがとうございました。質問、感想等あれば遠慮なくご連絡ください。 →itoe@findlay.edu

2018-2019 フィンドレー大学福井県奨学生月例報告書 まとめ

伊藤瑛里

作成日：2019年5月10日

8月から始まったフィンドレー大学での留学生活も終わりとなりました。この10ヶ月間、本当に充実した日々を過ごすことができました。

この留学を通じ、個人的に社会のなかでマイノリティを体験することができました。つまり、アメリカにおいて私は外国人でした。言葉も文化も違うため、慣れるまでには時間がかかりますが、そうした不安を先生方や友人のおかげで乗り越えることができました。日本ではこうした立場に立つことはなかなかできません。しかし、自分がマイノリティの立場に立ってみて感じたことは自分に対して自信をなくしてしまうことです。自分のなかで勝手に他のひと優劣をつけていました。ですが、そんなことはしていたのは自分だけでした。多くの学生と関わるなかで、彼ら彼女らは私をほかのアメリカ人学生と同じように接してくれていることに気がつきました。そのことに気づいたおかげで、自分らしくいればいいと思え楽になりました。しかしながら、マイノリティのひとが自らそのような考えを持てるようになるには時間がかかりそうです。そのため、周りからの後押しが重要であると考えます。実際私も多くの友人や先生方に助けられました。そのため、私たち1人1人がお互いの違いも認めあい、尊重することがグローバル化社会においては大切だと改めて感じるようになりました。

また、コミュニケーションにおいて大事なことは正しい文法・発音だけではないと感じることができ、英語は誰のものでもないと感じました。もちろん、正確なやりとりを行うためにはある程度の文法知識や発音は大事です。ですが、それよりも伝えようとする姿勢が大事です。私の両親は父の仕事の関係で5年ほどアメリカにいました。ですが、父も母も英語は全くです。幼いとき、「英語ができないのにどうして生活することができたの？」と聞いたことがあります。そのとき、母は「英語は心よ」と言っていたことを覚えています。その当時の私にはその意味がよく分かりませんでした。ですが、今ならその意味が少しわかるような気がします。相手に伝えようとする気持ちこそがコミュニケーションを行う上では重要であるということです。これは英語に限った話ではないと思います。言葉を学ぶことは複雑なプロセスを要し、時間がかかることです。初めから誰も完璧にはできません。ですが、まずはやってみることが大切です。その一歩を踏み出すことができれば、次第に力もついてきます。そして、楽しいと感じることのできるはずです。そのため、そうした体験が出来るような環境を教師となったとき、学校のなかでつくりたいと思います。

特に留学の後半である、春学期は学校訪問、先生方へのインタビュー、子どものチュータリングといった、教育に関わる活動がとても充実していました。将来、教師を志す私にとってもとてもよい経験ばかりでした。自分の母語でない英語を使って子どもたちと接するの

はとても緊張しましたが、私の話に耳を傾けてくれ、学校訪問で日本と家族について紹介したとき、私の英語に対して **good job** サインをしてくれた子どもたちの姿は忘れられません。また、学内のイベントやボランティアを通じて多くのひとに会うことができました。目の色、肌の色、文化が違ってもそれらをお互いに尊重し、見た目ではなく、そのひとの中身で判断する姿勢はこれからの日本社会でも大切になってくることと思います。最後に福井県奨学生として、様々な場で福井についてアピールすることができました。将来、教師になり、私を感じたこと、見たこと、学んだことなどを子どもたちや同じ職場の教師と共有し、これからの福井の学校教育に貢献していきたいと思います。

最後になりましたが、このような機会を与えてくださった、フリード前学長、西川前福井県知事、福井国際交流協会の皆様、そして、川村先生を始めとするフィンドレー大学の先生方、留学を応援してくれた家族、友人に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。